

第3回「(仮称) 調布市文化芸術推進ビジョン」策定検討委員会 議事要旨

- 1 日時 令和7年3月24日(月) 10時から
- 2 場所 調布市教育会館302研修室
- 3 出席者
 - (1) 委員 9人
 - (2) 事務局 文化生涯学習課 4人
 - (3) 事務局 株式会社 文化科学研究所 3人
 - (4) 傍聴 1人

次第1 開会

次第2 (1) パブリックコメント実施結果, (2) 調布市文化芸術推進ビジョン(案)

- ・事務局より資料の説明

○委員長

パブリックコメントは何日間やっていたか確認したいです。

○事務局

令和6年12月10日から年明け1月20日までを実施期間としています。調布市では1か月実施すればよいのですが、年末年始が入りましたので、10日間くらい多く実施しました。

○委員長

パブリックコメントの数が少なくて驚きましたが、調布市ではこれくらいが一般的ですか。

○事務局

回答が来ない計画もあります。一方、細かく30件、40件、50件といった計画もあります。今回につきましては、それぞれの項目でまんべんなくご意見をいただけたと思っています。

○A委員

今後期待することとしては、文化芸術にしっかりと予算を当てて、ここで書いた目指しているものが具現化されるようになっていくといいなと思います。例えば修学旅行は、大概の学校が伝統文化をきちんと体験してみましようという趣旨が多いのですが、子どもたちが市の中にだけにいなくて、色々なところに目を向けて色々体験することで、そこから市の文化がより豊かになっていくと思うので、そういうことも含めて、予算の部分でしっかりと確保してもらえたらなと思います。

○C委員

少ない時間の中で意見を絞り出してお伝えしてきたつもりなのですが、それがどこまで反映されているのか、感じられなかったというのが正直な感想です。今までの取組、既存の取組はすごく整理されたところはあるのですが、一方で、これ一冊が出て、新しい取組がここから始まるんだといった、すごい期待感が持てるというものがここに盛り込まれると思って発言してきましたけれども、その具体性みたいなものが私には伝わってこなかったと思いました。

調布市ゆかりのアーティスト、調布市が押しているものがあると思うんですけども、まちの中の市民の方がものすごく豊かな文化活動をされているというのを見てきていて、そういう人たちが入る隙がこの中にあれば、希望が持てたかなと思います。

○H委員

色々な施策がありますけれども、当団体はそれに対して文化権をちゃんとできているかどうか、それが足りないような気がしまして、これから見直しをしまして5年10年かけて取り組んでいけたらいいなというふうに変わってきました。特に「推進」という言葉が後押ししてくれているように思います。

○G委員

計画の内容としましては、既存の取組を整理したという風な見え方が強いのかなと思います。そこは今後の推進体制というのがありますので、その中で新しい着想による取組ですとか、今まで取り組んできていないようなことだけれども心躍るようなこととか、そういうものが推進体制の中から生まれてくればいいのかと思っています。単体ではやりきれない部分もありますので、横の連携とかをしっかりとバックアップしていただきながら、色々な取組ができたかなと思いますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

○E委員

地域共生社会というところを考えると、色々な方が生活する調布市の中で、誰もが文化に触れることができるようになるのが理想的で、市民が平等にそういったものに触れる機会があるといいなというのがここに参加して強く思ったところでもあります。これだけのものがあるところに参加できない方がいる、触れられない方がいるというのは残念だなと思うので、次につながる希望になったらいいなと思っています。

また、市民の方も日々色々イベントに出たりとか芸術に触れて感じているところはあると思うので、そういった情報をいつもキャッチできるようなところは必要かなと思うので、そこは引き続き広報だったり情報収集というところは続けていただけたらいいのかなと思います。

これがまとまったところで、関わっている団体が、これをベースに自分たちのこれからの活動なんかを考えられるといいのかなと思ったところでもあります。

○B委員

この1年間こういったことに携わらせていただけて、今まで調布市に住んでいる中で、こういうこともやっているんだなということを新しく感じられることができたというのと、やっぱりもっと何かできることがあったのではないかなというのは正直感じたところではあります。「てつみち」がなくなる時に、計画書みたいなものをネット上で見つけて、今後調布ってもっと新しいことをやっていくんだろうなというのは感じたんですね。その後にこういったことに携わらせていただいて、保守的というか、攻めの姿勢を感じられなかったなというのは感じました。冊子って多分若い人ってあまり興味を持たなかったりとか、世の中的にSNSや動画っていうのが伝えるメインのメディアだと思うので、そういったことで発信していくことで、今後もっと多くの人に興味を持ってもらえるんじゃないかなという風には思いました。

もう一つ感じたのは、こういった文化芸術をどんどん活性化するという中では、企業とのつながりというのが本当に大切だなと思っておりまして、そうなったときに、調布市は企業が仕事がしにくいところが正直あるかなと思っています。なのでそういったところも今後どんどん変えていっていただきたいなと思います。

○F 委員

こちらの会議で様々な立場の皆さんとご一緒させていただいて、とても熱くご意見が出たというところ、これだけたくさんの方が色々な立場で調布の文化芸術を考えて下さっているというところが嬉しかったなと思っています。

この会議の中で、皆さんから若い世代とか子ども向けにとか、もっとかみ砕いて伝わるようにという意見が出ていたかと思うんですけども、今後、各事業を通してもう少しわかりやすく皆さんに届くような言い方をしていけたらいいなと思います。

○副委員長

大事なものは、ビジョンを作って終わりではなく、これを推進していくということです。2つ申し上げたいのですが、1つは今回文化芸術基本法の改正に伴う基本理念の変更に伴って、分野横断的な連携をしていくということがある。これをビジョンに書いただけでは実現していかないの、市役所の中でこのビジョンを各部署で共有していくということが大事だと思うんですね。各部署が、このビジョンのことを踏まえて、それぞれの予算と人員で推進していただかないといけないと思うんです。このビジョンを市役所内に浸透しながら、他部署が文化の事業に取り組もうとすると、なかなかノウハウやネットワークがないということがあると思いますから、そういったときに文化生涯学習課がサポートしたり、そういう連携をして、文化生涯学習課で予算を確保して人員を増やしてすべてやるということではなく、他の部署がやることを側面支援していくという形で、全庁的にこういう政策が進められるようにしていくことを是非やっていただきたいなと思います。

それから、今回の柱の中で共生社会の実現というのがあって、これは調布市に限らず世界的に大きな課題になっていて、分断が深刻になっていますから、これをしっかりやっていく必要があると思うんです。色々な企業、職場で働いている外国人の方々との共生ということを第一に考えていかなければいけない。イベントに来る人は、ある意味余裕のある人達なので、そうではない人達の多文化共生を図っていくためには、企業、経済界とも連携しながら、外国人や色々なバックグラウンドを持つ従業員の方々が共に理解をしていくような取組を推進していく。それを文化生涯学習課が支援していく。これも結局のところ他分野の連携が必要になる。象徴的な事業を1つやって、そこに参加した人が満足したからそれでOKということではなく、本当に課題を抱えているところにアプローチするような取組をどんどん推進していただきたいなと思ったところです。

○委員長

調布市は今まで文化振興や文化財保護などはそれなりにやってきたけれども、それを今回初めてビジョンという形でまとめて整理をしたというのはすごく大事なことで、整理をしてから次に行けるわけですから、そのことの意味はすごく大きかったと思います。

それから、例えば今まで文化財の保存とか活用の部分で重要な役割を担っていた郷土博物館とか、劇場などの事業を運営してきた財団が、自治体の政策との関係においては、位置づけが不明確なところがあったと思うんですね。それがきちんと明確に記されたということは、博物館においても財団においても自分たちが担い手として積極的に担っていけるのだという、ある意味でお墨付き的なものが得られたのかなと思います。民間企業にお願いをして、財団のようなものはなくしていくような自治体もある中で、財団を非常に重視したということの意味は大きいと思いますし、それだけに今後どのような取組をされていくのかなというのはとても重要になってくるかなと思います。

他の自治体でも、1期で手薄だったところを2期の時に新たに自治体の状況を見て付け加えるということがあります。共生社会というお話がありましたが、その部分をどう文化で実現していけるか、その部分が足りないと思ったら、次期のときに上手く入れ込めたらと思いますので、まずはこのビジョンを上手に活用して、市の側としてもやっていってほしいということですね。

もう一つは、やはりビジョンなんですね。ここに計画と書いてありますが、実際には指針的な部分があり、市の側の意識に関わってくるところがあると思います。本気でやろうとしたら相当大変なことに取り組まなければいけないと思うので、その辺は心してやってほしいなということです。調布市がもっとかつちりとした推進体制を明確にするかどうかはわかりませんが、そういう方向性もあり得る。そういうものが必要になってくるかもしれないということも、将来的には想定していってほしいなと思いました。

○A委員

今回、委員長と副委員長とほんとに素晴らしい方だと素人ながら思っておりまして、それだけでもすごく幸せなんですけど、皆さんすごく意見が素晴らしくて、皆さんの意見をもっと聞いて、もっと議論を深めたかったというのがすごくあります。議論を深めた結果、これですということであればいいのですが、言っただけで聞いてくれたかなと思っているうちにこれができたというのが体感なんですね。あとは、委員長と副委員長のお考えもたくさん聞きたかったということがあって、回数が少ないのであれば、後30分くらいだけでもいいから長かったらと。もうちょっと考えを深める時間をいただきたかったのと、ちょっとしか発言ができなかったの、ここに来た意味はなんだったのかなとすごく思ってしまうので、今後こういう会議をやるのであれば、もうちょっと議論が深まるような余裕をいただけるとありがたいなと思いました。

○委員長

こういう議論のやり方がいいのか、事前に講演や勉強会をしてからでもよかったかもしれないし、やり方は色々あると思うんです。自分も意見を言いたいという思いもあるし、皆さんの意見も素晴らしかった。それだけに、1つ1つのテーマをもうちょっと皆さんと共有して話してもいいんじゃないかなという気もしました。

○副委員長

確かに、議論が少なかったという感じは受ける場所ですね。会議の回数が限られているということはあるにせよ、オンラインやメール上のやり取りも含めて、委員相互に議論する場が取れると良かったのかなという気がします。行政の方は事前説明とかをしてくださったと思うのですが、委員間で議論を深められると良かったなと。メールでのディスカッションとかでも意見交換はできるのかなと思いますし、チャットのようなものも使えるので、そんなようなものを使うのもありではないかなという気がします。次回にはそういうことをしていただけたらと思います。

○委員長

今、こういう会議では、文化とか芸術の意識の高い方たちと、こういう計画について議論をするという風になっているんですね。すごくレベル感が高いんです。皆さんすごく思いを持っていらして日々の活動をされているし、困っていることもあるし、市と連携できたらこんなにできるのについて、相当考えていらっしゃるって、それで来ていらっしゃる方が、どの自治体でも多いなと感じるんですね。それだけに、行政の側にプレッシャーもあると思うんです。行政もすごくたくさんのお仕事をされている中で、文化とか芸術は多様な領域にまで、多様な市民の要望をうまく擦り合わせながらやっていかなければならない状況が生まれている。そういう中で、それでも、今改めて文化とか芸術が大事だと思ってくださ

って、行政といっしょにやろうという形になっているのは、とても嬉しいと思っているんですね。もうちょっと色々な議論が出来るような場が、オフ会でもいいと思うんです。そういうこともありなんじゃないかと思いますので、次の機会とか、他の委員会でもそんなことを提案してくださるといいんじゃないかと思いました。

次第2（3）今後のスケジュールについて

- ・事務局より、今後の予定を報告

○A委員

事務局の皆さんが丁寧に事前説明に来てくださったり、私も思い付きで言うてしまうんですけど、丁寧に答えていただいたり、ご苦労も多かったと思います。自分もたくさん学ぶことができて、小林先生の著書も読ませていただいて、下準備はしていたのですが、お会いするたびにすごく勉強になって、皆さんと交流できてうれしかったです。

○C委員

親子で演奏したり、親御さんの演奏で子どもが歌ったりというのは、それが豊かさだなと思います。これからも子どもたちに豊かな文化体験をとというのは、もうちょっと頭を柔らかくして自分自身考えていけたらなと思います。

○H委員

この会に参加させていただいて、小林委員長をはじめ、色々な方のご意見を聞くことによってすごく視野が広がってきましたし、とても嬉しかったというかありがたいなと思います。

○G委員

今後も、できる取組をしっかりと、課題解決もしっかりやっていきたいと思っております。

○E委員

この委員会に参加させていただいてすごく勉強になったなというのが1つと、障害のある方であるとか、高齢者、あと困窮している方たちも、すごく豊かに色々な感性を持ってらっしゃって、そういった方たちの顔を思いながら、調布の文化芸術をどう広げていったらいいのかななんて思いながらこの委員会に参加させていただきました。日々生活する中で、文化芸術が皆さんの生活の中に浸透していくようになったらいいなと思っています。

○B委員

20代30代でクリエイティブなことをやっているメンバーも調布市には多いと思うので、これからがスタートだと思うので、私たちでできることがあればお手伝いをしていきたいと思っています。

○F委員

ここから新しくワクワクする文化芸術を、調布でみんなが楽しめる、みんなが豊かに生活できることを目指して頑張っていきますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。

○副委員長

調布市は色々な活動が活発に行われていて、桐朋学園のような世界的な音楽大学もあって、せんがわ劇場にしてもとてもユニークな活動をされていて、やはり文化の世界ではとても注目されている自治体だとは思いますが、やはりそこに住む人たちが、それによって幸せになっているというモデルとなる自治体になっていくと素晴らしいなということで、これからも調布市に注目をしていきたいなと改めて思った次第です。

・事務局より事務連絡

○委員長

それでは、以上をもちまして、第3回「(仮称)調布市文化芸術推進ビジョン」策定検討委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

以上